

# 寺報 善巧

発行  
〒938 富山県下新川郡  
宇奈月町浦山497  
白雪山 善巧寺  
☎宇奈月 0765(65)0055

寺  
こよみ

十月

一日 お講 板屋 法要実行委  
員会  
一六日 お講 三日市 法要実行  
委員会最終打合わせ

## 報恩講

一九日 午後一時 遠夜  
午後七時半 初夜  
二〇日 午前十時 満座

## 落慶法要

二〇日 午前十一時、表彰式  
お稚児さん願連寺集合  
正午 昼食  
午後一時 稚児行列  
午後一時半 法要勤行  
午後二時半 記念講演  
午後三時半 園遊会  
二六日 門徒報恩講 飯野・東狐  
新浜地区  
二九日 報恩講 板屋  
三〇日 報恩講 柳沢・田家・窪野



大修復なって生まれかわったあなたの浦山・善巧寺

十月十九日・二十日

報恩講

布教 川崎順正師

十月二十日午後一時

落慶法要

講演 利井興弘師

善巧寺大屋根修復落慶法要が、十月二十日営まれることになりました。

本年五月、本願寺阿弥陀堂の御修復完成落慶法要にあたり、御門主は次のように挨拶されて居られます。

「このたびのご法要に際し、お念仏の一生をすごされた先人の方々のご苦労とお徳をおもひ、今、お慈悲の中に生かされるいのちの尊さを味わい「念仏の声を世界に子や孫に」と、宗門・本願寺のあり方のその中で私のたすきつとめをかえりみる御縁を得ましたことは有難く大きな喜びであります。どうかこれからも南無阿弥陀仏、お念仏の日々を過ごさせていだきましよう。」

落慶の慶は、よろこびと訓みます。喜、悦、歓、とも書きます。親鸞聖人のお言葉の中にも、此のよろこびと云う言葉が、沢山見られます。

御門主は、修復落慶法要のお言葉の中で、有難い、そして、大きな喜びと仰言っておられます。善巧寺の本堂が、立派な姿と生まれ変わったことは、有難い、そして大きな喜びであります。皆様の念仏の聲が積み積って、このよろこびの日を迎える機縁となったのに相違ありません。これこそ、法悦と云

## 落慶法要

うべきであります。

私は、一昨年六月の或る日を思い出します。丁度吉野工業の手で大屋根の半ば以上が取り払われて本堂の姿が一変していた時のことです。毎年、落語会に来て下さる永六輔さんが、此の年は、特別に公民館に会場を移して落語の会をしたのですが、一行と共に善巧寺にお出でになって、「あわれな姿だなあ」と、万感を籠めて仰言ったのを忘れません。実際あの姿は、無惨と云う他ない状態でした。老朽、腐蝕した材木の一つ一つが、それこそ白日の下に曝されたようで、これが法の殿堂かと思われたのでした。

今、秋の日を浴びて、そびえている善巧寺本堂の尊容を仰ぎ見るとき、有難さが、こみ上げる思いが致します。

よろこびの法要の日が、一日一日と近づいて参りました。もう一度、皆様と一緒に「よかったなあ」と、手を取って、法悦の声をあげようではありませんか。

来る十月二十日は、善巧寺門徒総集合、総歡喜の日と致したいと思ひます。

住職 雪山俊之

# 修復事業ついに完成



本堂大屋根修復工事 (59年10月10日完成)

設計監督は大野和悦さん。施工は大藪建築で昨年十月十日に完成しました。かわらの流れの美しさもさることながら、境内にあったトガの太木が、一枚板になって、破風を飾ってくれたことも忘れることができません。

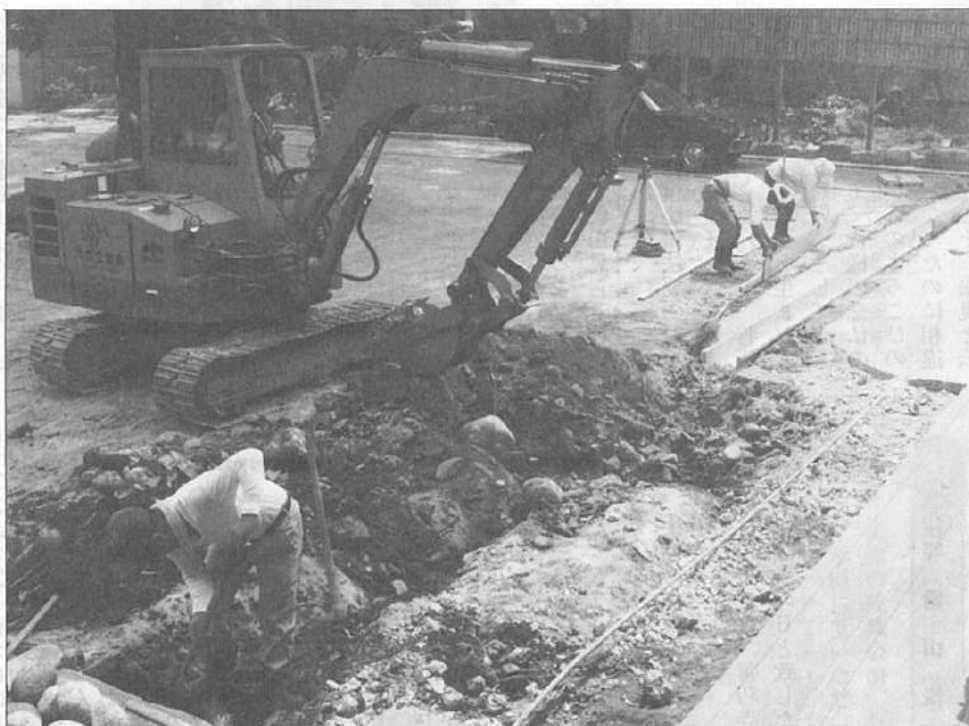
五十九年の豪雪に端を発した、善巧寺の大修復工事は、門信徒の皆さまのあたたかいご協力によって、ようやく、この九月に完成の運びとなりました。第一期が本堂大屋根修復工事。第二期が境内の排水工事。そして第三期が庫裡その他の防水工事。と、それぞれに多くの建設関係者にお骨折りいただき、皆様の善巧寺は、文字通り生まれかわったようであります。

そのよろこびの落慶法要を迎えるにあたり、この二年間の大修復事業の全容を、ふりかえってみたいと思います。

## 第一期 大屋根修復事業

昨年三月十日、大雪で老朽化した本堂の大屋根から漏水が激しく緊急会議が開かれ、どうしてもこのままでは持たない、という結論に達し、各地区で説明会を開くとともに、全門徒の方々へ、趣意書を配って、ご協力を仰ぎました。「おらたちの寺じゃもんじ」と、それぞれが精一杯がんばって下さり、昨年は、工事のツチ音とともに、懇志の札を打つ音がたえませんでした。

この九月現在、五百六十余件、総額五千数百万円の懇志が集まり、善巧寺の大屋根は根本構造から造り替えられ、見事な入母屋造りのかわら葺きに生まれかわりました。



境内の排水工事 (60年6月)

## 第二期 境内整備、排水工事

大屋根の修復を機に、この際、予算の許すかぎり、寺の将来を考えて、修理改善できるところはやっておかなくては、と、第二期工事には境内の整備と本堂の基礎、東側石垣の修理、そして、雨水排水の側溝を、新しく設置したのはこの春のことです。

施工は島田工務店。人夫の方もすべて門徒さんということもあって、誠心誠意つくして下さり、おかげで、水びたしや、土砂の流出に泣くこともなく、他家への迷惑も十分に防げるようになりました。

# 2年がかりの善巧寺

## 第三期 防水工事

そして、最後は、残り少ない予算の中でも、これだけは是非やっておかなくては...という庫裡の防水工事が、この夏いっぱいかかって進められました。

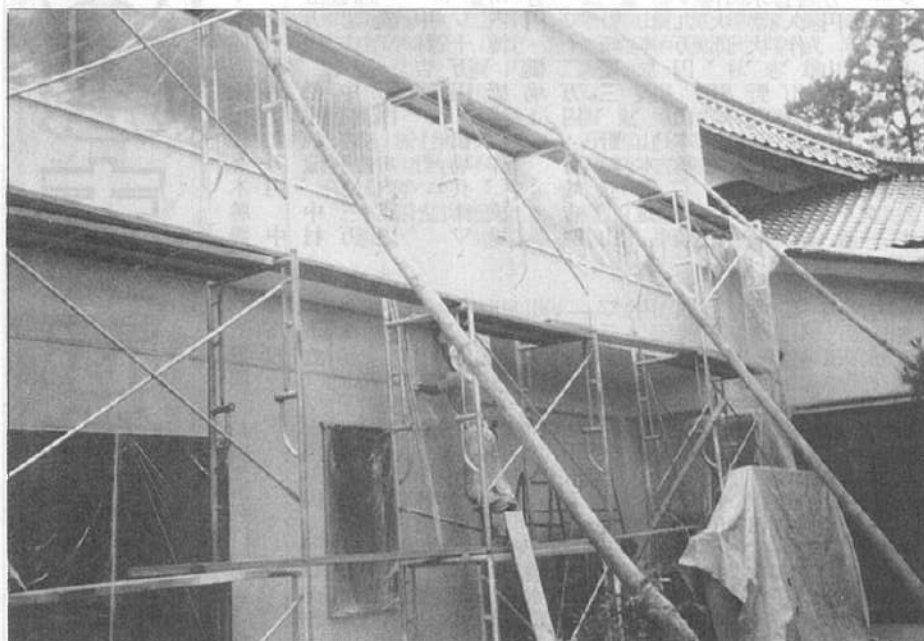
や座敷、廊下等で雨もりがたえませんでした。それに、窓はほとんどが鉄サッシで、サビがひどく、開け閉めにも不自由する始末。そんなことで、設計を東狐義之さんをお願いし、大敷建築さんが工事を引き受けて下さり、屋上の防水をはじめ、サッシの入れ替えの吹きつけなど、庫裡の化粧直しを進めてまいりました。

また、住職の書斎も手狭になっておりましたので拡張し、外装のみを予算内でお願いさせていただきました。工事は九月の下旬にようやく終わり、これで、善巧寺修復事業のすべてが完成いたしました。

寺 十一  
こよみ  
一日 お講 愛本新  
空 華 忌  
四日 午後七時半 初夜  
五日 午前十時 日中  
午後一時 満座  
講師は、行信教授 高田慈昭先生です。おさそい合わせの上お参り下さい。



庫裡屋上の防水工事 (60年7月)



庫裡側壁サッシ入れ替えと吹きつけ (60年8月)

- 八日 野上り落語会 いつもの若手の方々が今度、真打ちになられました。めったにない真打ち披露の落語会です。
- 一二日 報恩講 中陣
  - 一五日 報恩講 出
  - 一六日 お講 浦山新
  - 二二日 報恩講 魚津
  - 二二日 報恩講 中新
  - 二六日 報恩講 柝沢
  - 二七日 報恩講 浦山新
  - 二八日 報恩講 石田・経田
  - 二九日 報恩講



# 善巧寺修復事業懇志志納者御芳名

九月二十日現在の懇志志納者の一覽です。記載もれや、誤りがあるかもしれませんので、確認のため掲載させていただきます。

名簿は地区別に分け、懇志同額のものゝ順不同でまとめさせていただきますました。訂正やお問い合わせがありましたらご一報下さい。

失礼ながら敬称は略させていただきますました。

## 音沢

▽三十万円 佐々木与作、佐々木繁作▽二十万円 佐々木助一、野村五郎▽十万円 佐々木仁春、朝倉さくら、佐々木九郎作、佐々木清九郎、野村孝虎、佐々木弥左エ門▽九万円 佐々木次正、佐々木昌保、佐々木直盛、中村市二郎、水越作郎、佐々木林、朝倉孫石、野村松義、佐々木繁松、佐々木松次郎、佐々木敬蔵、佐々木隆一、佐々木貞盛、谷口治夫、高島彦二、佐々木隆吉、佐々木八郎、山本昭夫、野村竹春、朝倉忠勝、高島孝作、佐々木虎松、佐々木作盛、佐々木太郎吉、長沢はな、佐々木宇親、佐々木碩夫、佐々木一治、佐藤忠行、佐々木隆、佐々木

## 栗虫

▽十四万円 谷口吉丸▽十万円 宮崎俊夫▽九万円 川内辰雄、川内量作、川内勤治、谷口榮作▽五万円 川内貞義、谷口清▽四万円 川内武盛▽三万円 谷口健治▽二万円 川内勝、川内信吉、谷口富義▽一万円 川内作一、川内盛義、谷口吉男、川内寅次郎、川内幸七、川内宅一、川内正治、川内武夫▽七千円 川内隆義、谷口義松

## 内山

▽十四万円 佐々木勝義、▽十万円 松平源治▽九万円 中村つよ▽五万円 松平源蔵、中村石夫、中村忠夫、中村吉男▽三万円 鬼原一義▽一万円 川内正之、朝倉輝雄、中林吉平、上野いと

## 中ノ口

▽十万円 橋場兵衛▽九万円 川内博、橋場仁作、橋場孝正▽五万円 橋場正一

## 愛本新

▽十二万円 野崎吉明▽十万円 野崎慶三、野崎弘、山本浅次郎、山本辰義、山本静雄、野崎健治▽九万円 山本勇、寺崎巖、山本作次郎、野崎吉久、野崎吉郎、清水泰次、野崎静枝、野崎斎治、中村久作、山本正義、野崎勝吉▽三万円 山本彦由

## 下立愛本

▽三十万円 清水久一、福沢敏次▽二十万円 橋爪伊左夫▽十五万円 福沢孝治▽十四万円 橋爪芳雄、福沢順七、瀬川亨▽十万円 谷口武義、橋爪正義、福沢五郎作▽九万円 沢木武雄、沢木庄作、福沢実、福沢弘、清水喜一郎、福沢満、棚茂樹、佐々木憲勝、清水明、棚英志、川原善吉▽八万円 瀬川みね▽五万円 野村篤司、沢木金治、▽三万円 清水栄一、清水久作、沢木義松、沢木忠義

## 赤田

▽九万円 棚直一、棚繁

## ▽五万円

## 口隆義

## 下立

▽十四万円 谷口源作、中林与市、川口由市▽十万円 中林久吉、谷口正明▽九万円 中林保、中林ふき、中林富男、谷川広司、谷川繁夫、谷川勇、谷川敏之、川口敏彦、川口信行、川口三郎、川口久夫、川口れい子、清水信秀

## 浦山

▽三十五万円 樫義孝▽二十四万円 本波貫一▽二十万円 中山慶太郎、本波光雄、菊地良造、大藪国康、野島重一、棚沢茂憲、沢田最一▽十五万円 沢田文吉、西中森一、沢田武次▽十四万円 山内健二、本波秀夫▽十万円 田中米作、二口実、橋本庄吉、河村忠次、本波吉男、田中久、本波芳夫、新保助作、中村嘉太郎、河村三郎、沢田正・慶太郎、沢田幸雄、橋俊宏、岩崎みつ、沢田修、中村慶一、棚沢勇、河村幸作、久田智登司▽九万円 大藪博紀、本波正人、本波甚二、加藤友司、西中勇一、谷口太郎兵衛、河村義和、沢田昭大、橋本英園、菊地整、新保幸一、橋てる、岩上孝夫、有馬国男、有馬猪次郎、沢田米作、本波ひで、中村良夫、中村庄作、西中弘、大浦征夫、

## 中村与四松

## 中村豊三

## 野島義春

大浦栄三雄、沢田忠信、棚沢俊市、橋理吉、八木武吉、上坂長造、橋久次郎、本波国昭、八木秀雄、橋忠孝、岡田清次郎▽四万円 本波みどり、高島ゆき子▽三万円 大藪トミ子、大浦清、本波春次、大和よしゑ、森内庄次郎、河村ふさ▽二万円 北川トキエ▽一万五千円 沢田正助▽一万円 野島愛子、中トシエ、中やよ、中みさ、河村やえ、福島さよ

## 下村

▽百九万円 大藪トキエ▽二十五万円 岩上巳之助▽二十万円 上坂好次▽十九万円 大藪理二▽十五万円 岩上みどり▽十四万円 新保隆夫、橋松次、新保栄一▽十万円 新保茂雄、岩上勝彦、大藪守、上坂百合子、橋清治、新保啓一▽九万円 大浦和行、新保満夫、橋啓一、新保光代、新保政二、橋常由、大浦守悦、大藪利夫、大藪森吉、大浦豊、橋弘、新保林作、大藪勝志、大藪茂博、新保幸夫▽一万円 橋ちよ

## 大橋

▽十五万円 大藪良造▽十万円 西中庄作▽九万円 西中和子、西中正一

## 橋屋

▽二十万円 野畑一雄▽十万円 野畑博▽九万円 野畑幸

本當に有難うございました。  
心からお礼申し上げます。

善巧寺総代会・同修復  
実行委員会 鬼原勝次  
善巧寺住職 雪山俊之

- 次郎、野畑徳次郎、川原安久  
熊野 △十四万円 岡田嘉太郎  
△十万円 岡田実、岡田猪作、岡  
田洋、岡田与造、岡田栄一  
获生 △十万円 山本やい△二  
万円 佐々木秋三  
三日市 △二十万円 本波力造  
△十万円 山片寛、浦田安次郎、  
浦田一郎、高松昭春、野畑豊次郎  
△九万円 西田秀幾、中坂岩雄、  
大浦正毅、浦田安生、折沢ハル、  
大教助雄、橘日出夫、島田正豊、  
熊野拾昇、橘憲治、浦崎博、大島  
清一、大教敏三△三万円 大島浅  
治△一万円、朴谷久美子、高田春  
枝  
中新 △十四万円 尾沢清浩△  
十万円 丸田信夫△九万円 尾沢  
徳蔵、尾村石次郎、東狐義之、尾  
沢正敏△六万円 尾村豊△三万円  
谷口重義、尾沢清司  
折沢 △二十五万円 開沢弘△  
二十万円 開沢泰久、開沢信一△  
十四万円 開沢憲一、開沢茂、藤  
沢政治、開沢義輝△十万円 開沢  
弘治、藤沢徳次郎、開沢利雄△九  
万円 開沢光弘、開沢稔、開沢庄  
造、開沢英一、開沢豊作、藤沢勇治、  
藤沢義秋、藤沢清、藤沢義雄、藤沢  
猛、藤沢豊、藤沢潔△五万円 藤沢  
久作、藤沢義信△三万円 開沢宏之、  
島田信夫△一万円 開沢章一  
生地 △五十万円 船屋幸吉△  
十五万円 根塚仁八△九万円 船  
屋巧、高倉茂、橘新作、東狐幸一、  
長沢又作△八万円 植木宏△七万  
円 植木孝、根塚隆弘△六万円  
根塚潔、船屋文治△五万円 根塚  
卯一、島田一郎△四万円 根岸は  
る△三万円 根塚豊春△二万円  
東狐節  
田家・柳沢 △九万円 中坂一  
郎、中坂政信、中坂宗作、島田三  
郎△五万円 中坂与一  
石田 △十万円 折沢重盛、森  
岡昭二△九万円 折沢良雄、森岡  
栄一△五万円 折沢久志、折沢キ  
ク、森岡清松△三万円 折沢重吉、  
折沢栄作  
中陣 △二十万円 丸田賢一△  
十万円 丸田久次△九万円 大野  
弘恵、丸田君栄、丸田武雄、丸田  
博昭、丸田甚吾、丸田良作、丸田  
和重、丸田進、丸田力△六万円  
越後庄太郎△五万円 丸田貞夫、  
丸田正一、丸田一夫、大野開、丸  
田梅壹△三万円 丸田義弘  
魚津 △二十万円 谷口小一郎  
△十万円 浦山久雄、折沢郁夫、  
山本秀雄△三万円 谷口律男  
出 △十万円 山根要造△九万  
円 山根清一郎、山根清治、山根  
武夫、山根浅二、谷口義弘  
舟見 △十四万円 内島弘之△  
十万円 橋場東作△九万円 橋場  
俊夫、橋場一二三、山下順一、山  
本一永△五万円、橋場丈夫、樽井  
弘  
浦山新 △百万円 鬼原勝次△  
二十万円 浦滝友一△九万円 浦  
滝基一、浦滝武雄、浦滝政治、浦  
滝義松、鬼原隆志、鬼原文雄、浦  
滝善造、鬼原利秋、鬼原文二、鬼  
原友義、鬼原勇、鬼原幸晴、鬼原  
勇作、鬼原賢治、鬼原長吉、鬼原  
長之助、鬼原賢治、鬼原政栄、鬼  
原秀雄、鬼原六義△四万円 鬼原  
勇  
上野 △十万円 板川進△九万  
円 板川安二、板川サツ子、板川  
清治、板川久松、板川伊左次郎、  
板川誠一、板川忠雄、板川孝昭、  
板川繁、板川由二、板川俊人、板  
川正義、板川吉信、板川啓三  
東狐 △三十万円 川瀬達也△  
二十万円 川瀬久義△十四万円  
川瀬隆△九万円 川瀬義雄、川瀬  
秀雄、川瀬八郎、川瀬敏久、川瀬  
常和、川瀬恭一、川瀬正一、板川  
勇、川瀬久雄△三万円 川瀬忠夫  
板屋 △二十万円 島田久一、  
島田竹次△十五万円 島田勲、島  
田藤一△十四万円 島田栄松△十  
万円 島田松伊、島田幸一、島田  
正一、島田俊雄、島田久之△九万  
円 島田敏一、島田稔、島田要松、  
島田武司、島田正敏、島田久成、  
島田友秀  
飯野・新浜 △二十万円 島田  
久徳△十万円 島田与一△三万円  
板倉弘、板倉一好  
泊・八幡 △十万円 板久雄△三  
万円 板光夫△一万五千元 板ひ  
で  
入善 △十万円 板川繁次郎、  
佐々木理一△九万円 川瀬仁吾、  
板谷賢作、板谷忠次、寺崎憲太郎  
△五万円 浦滝豊  
富山 △十万円 橋場啓次、鬼  
原治男、野島威、橘守之輔△九万  
円 飛弾芳信、沢田良子△三万円  
佐々木武和△二万円 根塚房子△  
一万円 開沢文治  
東京 △三十万円 上野一雄△  
十万円 本波哲郎、大浦忠義△九  
万円 上野忠一、沢木義松△五万  
円 野畑よし△一万円 佐々木恭  
子  
その他 △百万円 善巧寺住職  
△五十万円 善巧寺若院△十万円  
河村左官工業、松原工務店、細川  
鉄工、佐々木安正(名古屋)、藤川  
恵美子(九州)、落合はやみ(同)、  
善積英之(横浜)、善積治子(兵庫)、  
△五万円 吉野工業、利井晃子(大  
阪)△三万円 須田開代子(東京)  
喜久太郎(東京)

◆ — ◆ — ◆ —  
なお、大修復懇志は現在も受け  
付けております。法要厳修までい  
ま一歩というところでございます  
ので、未志納の方も、ただだけに  
ご協力下さいますよう、伏してお  
願い申し上げます。



# いよいよ落慶法要勤修



57年秋の大法要より

善巧寺の大修復事業の完成を祝って、十月二十日、いよいよ、落慶法要がつとめられます。

全員参拝、総歓喜—をモットーにしておりますので、門信徒の皆さま、万障お繰り合わせの上、是非是非、お参り下さいますように—

法要は十月二十日です。

【報恩講お満座】例年十九・二十日と寺の報恩講がつとまっています。

すが、今回はそのお満座を二十日の午前十時に繰り上げて、おつとめし、お説教を一席、聴聞します。

【表彰】つづいて午前十一時半から、このたびの修復事業に多大のご協力をいただいた方々に、感謝状と記念品を贈らせていただきます。

【稚児行列】午後一時、いよいよ落慶法要のはじまり。整備された境内を、稚児行列がすすみ、衆人、法中、そして、被表彰者や婦人衆、伝供衆が連なります。

お稚児さんの希望者はお早目にお申し込み下さい。

## お参り下さる皆さまへ

まず、この寺報と一緒にお手元に届けられたものを確認下さい。

①落慶法要招待状 六三〇の門徒の方々すべてに行きわたるようにつとめました。なお、不行届がございましたら一報下さい。そしてこのほか、お申しつけ下さいました「いはい」の方々にも招待状を出させていただいておりますが、ぜひ参らせたいという方がおられましたら、その旨、地区総代さんか、寺の案内係へご連絡下さい。

②記念品引換券 今回の法要記念

【法要】奏樂の中、伝供（おそなえ）が行なわれ、華やかな童子衆によって華籠（けろう）が法中の方々に配られます。導師は八尾の閑名寺御住職。表白のあとのおつ



57年春の園遊会より

とめは、ご本山の慶讃法要作法。ご一緒にお正信偈を声高らかによませていただきますよう。

【記念講演】おつとめのあとは、全員開法—記念講演は、行信教

校長の利井興弘師。

【ごあいさつ】講演のあと、住職と、実行委員長からお礼のことばがのべられます。

【慶びの宴】そして最後は、りっぱになった本堂大屋根を仰ぎ、排水設備も完備した境内で、ご法中も門徒衆も一丸となって、なごやかな園遊会を催し、祝杯をあげることにしております。

どうぞ皆さま、おさそいあわせの上、お参り下さいますように。

のお扱いは、明教院僧侶師の色紙「大悲」です。黄色の引換券で受付けてお受けとり下さい。

なお、ピンクの引換券の方は、色紙と、ご苦勞いただきました瓦の懇志のお礼の品を用意させていただきましたので、合わせて受付けてお受け取り下さい。

また、いはいの方には白の引換券が入っております。色紙といはいの方々への記念品がございますのでお受け取り下さい。

③弁当引換券 当日の昼食は全員にお弁当を出させていただきます

④園遊会食券 法要のあと、午後三時半ごろからの予定ですが、境内（雨なら本堂）で慶びの宴を催します。当日は、婦人衆、夢を語る会、日校OBの皆さんの協力で屋台等が出されます。そのときにおたのしみいただくためのものです。

⑤稚児申し込み書 希望者がございますしたら、至急、稚児係「法輪寺（高島）」までご連絡下さい。

# 10月20日

## 善巧寺落慶法要委員会



このたびの法要を迎えるにあたって、この七月「落慶法要実行委員会」が結成され、これまで再三会合を重ね、委員長に鬼原勝次さん、副委員長に菊地良造さんを選び、法要の意義や規模、段取について検討を重ねてきました。その結果、今回の法要は、華美に走らず粗末にならず……をモットーに、全門信徒が心か

らよるこび合える法要にしようということになりました。同委員会では、八月の会合で、各担当の世話役を次のように決めました。

〔総務〕 鬼原勝次、菊地良造、中山慶太郎、谷口小一郎、本波光雄、田中まつ子

〔案内〕 本波光雄、鳴田久一、大藪富美子

〔食事〕 菊地良造、開沢弘、開沢泰久、開沢信一

〔記念品〕 谷口小一郎、松平源治、川瀬久義

### 60年秋の落慶法要予算

|             |           |
|-------------|-----------|
| ① 荘法        | 300,000   |
| ② 記念        | 1,200,000 |
| ③ 記念        | 600,000   |
| ④ 記念        | 1,000,000 |
| ⑤ 記念        | 400,000   |
| ⑥ 記念        | 1,000,000 |
| ⑦ 記念        | 200,000   |
| ⑧ 記念        | 100,000   |
| 敬礼 業務録 業務費計 | 4,800,000 |

〔莊嚴〕 神子 勉、沢田最一、中林久吉、浦滝友一、岩上巳之助、本波貫一、森岡昭二、本波ヒサ

〔稚児〕 高島有哲、野島重一、橋爪伊左夫、河村とし

〔出仕〕 橋本庄吉、清水久一

上坂好次、〔園遊会〕 佐々木与作、佐々木助一、佐々木繁作、夢を語る会、他総代全員

なお、法要予算は別表の通りです。

寺  
こよみ

十二月

九月九日 月曜 晴 五節句の一つ、重陽に当る。但し、これは陰暦の話。昔、重陽の宴を張った風流のおもかげが偲ばれるような爽やかな秋晴の一日になりそうだと云う虚子の句がある。

八時、レッカー車が入って来る。本堂修復工事以来、レッカー車はおなじみだが、これは、宇奈月Y商会の中型レッカー車である。一昨日の突風で倒れた本堂修復懸志札の立看板の引起し作業に来て頂いたわけである。若者四人と棟梁が、夫々、腰に七つ道具のバックをつけてきざりと順を追って仕事に着手する。紐様のザイルに結びつけて運転席で操作して一応

の引起しをする作業。五本の杭を等間隔に打込む作業。支えの柱の四本を後部に取付ける作業。工程の最初から最後まで、こちらは突っ立ったままの姿勢で、見学させて貰う。丁度一時間で、旧態に復すわけである。此の頃、ザツハリヒと云うか、現実的、即物的な考え方が魅力を持つに至り、従来のともすれば観念的な理論的な考え方に嫌気がさしている傾きがあるものだから、此のように物が作られて行く過程は、一日中見ていても飽きることはない。渾身の力をこめて、杭を



### 住職日記

打ち込む時の、若い男の腕の動き一つを見ていても、ふやけた頭が、改造されて行く思いがする。レッカー車が引き上げると同時に今度は、発動機をのせたペイント車の自動車が入って来る。これは若者三人の庫裡ふきつけ作業の男たちである。S・Mダンタイル二十キロ入り八缶を、噴射機で万

辺なく噴きつけると新築後二十二年の間に老廃、褪色したコンクリートの全壁面が、純白に変様して行く。手袋、頬かむり、脚絆と云う出でたちで、二階の天辺まで、

張りわたした足場の板を渡りながらの噴射である。噴射機のモーターの音を耳にしなが、離れの縁側に坐り込んで見ている。次に、着色剤のアトロンタンを吹きつけて、工事は大体、午前中に終了する予定とのこと。純白から、卵色に変化してそれが秋の陽ざしを浴びて美しい。

白衣に着替えて、本堂で勤行。昨日の葬式の寺詣りである。総勢二十二二人。此処でも世代の変化が長女、次女のクラスメートが既に一家の長となって采配をとっている。何となく騒々しい一日だった。

戸障子を開けはなして秋の陽を秋の風 縁をめぐりて山の寺

三二日 除夜会 恒例の除夜の鐘年々ご参詣がふえております。ゴンと鐘を一つきして、本堂にお参りになり、集会所で祝いのタル酒をいただいて下さい。

なお、正月参りは、なるべく、一日の午前中にお越し下さいますようお願いいたします。

一日 お講 下立・愛本

二日 報恩講 中ノ口

四日 報恩講 愛本新

六日 報恩講 大橋

七日 報恩講 下村

一〇日 報恩講 下村

一二日 報恩講 下立・愛本

一四日 報恩講 赤田・内山

一六日 お講 浦山

一七日 報恩講 音沢

二二日 報恩講 音沢



北 日 本 銀行 印刷 昭和60年(1985年)9月5日 木曜日

夫婦交響

隆弘さんは学生時代、劇団「四季」に属していた。子供のころから児童劇団に入っていた僕劇好き。英語で時の日曜学校をやっているうちに「その文化活動を」と題名して子供たちに劇を教えた。

三言 聖子とて(ち) = 聖子事

踊舞劇団が配演した『親子劇』の一幕  
 三軒川・佐藤

## 盛り上がった佐渡公演

春日 敬子

[illegible]

★お寺のユニースをこのページにと思っていましたら寺報に出る前に、北日本、富山、読売などにほとんどん書いていただき、その他TVやラジオでも話題になったりして……まあけっこうなことだというぐらいの気分で見出しだけでもご覧下さい。

八月十九日(二十五日)開演。七十数名所で、舞台劇「  
一團金日本子供のための舞台劇」演劇会、歌謡技など  
甚洒大盛況。が新劇・佐藤 西が行われ、この日市

9月15日 (星期日) 九月 廿五日 新 凡

重宝な小物入れ

古布を袋に縫い合わせ  
新しい土産品で発売

宇奈月のおばあさん8人衆

[illegible]

土産品として売り出す「つつみ」

[illegible]

▼日校夏の寺小屋開く(7・8月)  
門徒の先生方の実のある講義▼一泊聞法再開(8・6)講師は佐々木俊朗先生▼盆踊り盛況(8・15)▼昨年の二割増▼盆会(8・16)▼学童疎開の飯田さん四十年ぶりにお寺へ(8・20)▼ご恩報車第4号 寺の車、黒のセドリックに

十一月四・五日  
行信教  
校教授  
高田慈昭師

右の記事などでご承知のように夢を語る会のお世話で、おはあちやんたちのつくった「つつみ」が宇奈月温泉や東京などでデビューしました。いま制作に大わらわ。針と糸を持てる方、どうぞ応援して下さい。材料支給。お手間五百円

◆つつみつくり募集中

野上り落語会 十一月八日  
おなじみ、若手の朝太サン、扇

おなじみ、若手の朝太サン、扇好サンが、めでたくこの秋、真打ちに。二ツ目からのファンにとつてはうれしいかぎり。一つ、ポーンとご祝儀はずんで、真打ち披露落語会で祝つてやろうじゃないですか。

そして秋、九月にはいって、こんどはおばあちゃんたちのデビューです。デザイナー森英恵さんらの応援で、すばらしい「つつみ」が出来上り、夢を語る会のお世話で、九月十五日、宇奈月温泉のみやげもの屋さんにならべられました。おばあちゃんの生きがいにと、というのがネライです。評判は上々で、十月には県の観光物産展にも出品が決まっています。手のあいしているおばあちゃん。つくり方はお教えします。どうぞふるって参加して下さい。

本当にありがとうございました。

おかげさまで大成功。子供たちも、つきそいのお母さん、お父さん、おばあちゃんたちも、感激の夏でした。

雪ん子劇団の佐渡公演、たくさんの方々に応援していただいて、本当にありがとうございました。おかげさまで大成功。子供たち

十月にはいつて、いよいよ落慶  
法要の月。みなさまのおかげで、  
生まれかわった善巧寺、心も器も  
ピカピカです。さあ、みんな手と  
とり合つて、喜ぼうじゃないです  
か。

